

魅力がいっぱいです

29校はここ数年、首都圏でも最も高い増加率で増えてきたものです。

保護者のみなさまの期待の大きさ、ニーズの高さがあと押ししているからこそのもでもあります。

29校のうちには、男子校3校、女子校3校、共学校23校があり、また、このなかには系列の大学を持つ大学附属校もあるなど、さまざまなタイプの学校があります。そして、それぞれ独自の「教育理念」で子どもたちと向き合っています。

しっかりとした「教育理念」を、それぞれの大きな柱として持っているということが私立学校の特徴です。

創立者が掲げた「教育理念」を、連綿とつらなる歴史のなかで守りぬき、わが校の生徒には「こんな人間に育ってほしい」、「こういうことが考えられる人間に育てたい」という確固たる信念をそこに見ることができます。

卒業し、大学や社会に出てから、「ああ、この思いは学校で作られたものだ」と感じる卒業生がたくさんいます。

その教育理念に基づいて、各校の教育カリキュラムが作られ、そのカリキュラムが有効に浸透するよう教育方法や方式が作られ、異動のない教員たちによって継続してきました。

施設にしても、教室、体育館、実験室、音楽室、調理室、図書館、自習室、恵まれたグラウンドなど、各校それぞれ工夫をこらし、青春を過ごす環境としてすばらしいもの

となっています。

授業は進路・進学指導を柱に、国際理解教育、情操教育などが充実しています。授業の理解のために少人数による習熟度別授業や補習の実施などにも積極的です。また、教育は授業のなかだけで行われるものではありません。学校行事、クラブ活動、生活指導も、教育理念のもと、生徒たちの学校生活を輝かせる一端となっています。

みなさまには、それぞれ独自に輝く29校のなかから、自分に合った学校を選び取る自由があります。

❖学費が安い埼玉の私立中学校

埼玉の私立中学校の学費は、近隣各都県に比べて安価であることも特徴の1つといえます。

この春（2015年度）でいえば、埼玉県私立中学校における初年度納入金の平均額は82万5641円でした。初年度納入金とは、入学金、年間授業料、施設費など1年目に支払う学費の合計です。

同じ初年度納入金の平均額は東京で93万6679円、神奈川では96万1056円となっており、埼玉県の学費の安さが際立ちます。

また、埼玉県では授業料について「私立学校の父母負担軽減事業」が充実しており、中学校段階では家計急変生徒への補助、さらに高校段階では国内でもトップクラスの授業料補助制度（所得額に応じて）があり、2013年度からは、さらに補助単価が増額されています。